科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 26 年 5 月 23 日現在

機関番号: 1 1 1 0 1 研究種目: 基盤研究(C) 研究期間: 2011 ~ 2013

課題番号: 23591611

研究課題名(和文)ウイルス感知レセプターの自然免疫力を活用する新規癌療法の確立

研究課題名(英文) Development of new anticancer therapy utilizing the innate immunity

研究代表者

松崎 康司 (MATSUZAKI, YASUSHI)

弘前大学・医学部附属病院・講師

研究者番号:50322946

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文): 今回、IFN- 刺激によるRIG-Iタンパクの発現誘導が、ヒトメラノーマ由来培養細胞において確認された。また、24時間のIFN- 刺激により培養ヒトメラノーマ細胞の増殖能は有意に抑制された。その他のサイトカイン、IFN- 、TMF- 、TGF- 刺激では、メラノーマ細胞によるRIG-I発現増強効果はみられなかった。合成核酸アナログであるpoly-(I:C)刺激では、ヒトメラノーマ細胞におけるRIG-I発現増強効果は認めなかった。

研究成果の概要(英文): I confirmed that cultured melanoma cells expressed RIG-I protein by IFN-beta stimu lation. Moreover, proliferation activities of melanoma cells were suppressed by IFN-beta. Poly-(I:C), know n as synthetic analog of double-stranded RNA, has no effect on the induction of RIG-I expression in the h uman melanoma cells.

研究分野: 医歯薬学

科研費の分科・細目: 内科系臨床医学・皮膚科学

キーワード: メラノーマ RIG-I

1.研究開始当初の背景

生体最外層に位置する皮膚は、常に細菌・ ウイルスなどの微生物に曝されているが、 「自然免疫」と「獲得免疫」という2つの感 染防御システムにより、皮膚の恒常性は維持 されている。特に「自然免疫」システムは、 侵入してくる病原体の早期発見とその感染 拡大の抑制に重要な役割を担っている。細胞 内に侵入したウイルスを認識する細胞内受 容体として retinoic acid-inducible gene-I (RIG-I)が同定され、I型 IFN である IFN-の発現を誘導することが解明された (Yoneyama et al, Nat.Immuno1, 2004) (図 1)。また、RIG-I は正のフィードバック制御 により、誘導された IFN 刺激により RIG-I の 発現自体が更に持続的に誘導されることが 判明している。近年、細胞内新規アダプター である stimulator of interferon genes (STING)が小胞体上に存在し、ウイルス由来 DNA、RNA を認識し「自然免疫」を高めること が解明された(Ishikawa and Barber, Nature, 2008)。皮膚悪性腫瘍であるメラノーマに対 して、人為的に RIG-I・STING 発現を作るこ とにより I型 IFN の過剰産生を促し、 型 IFN の直接的作用としてメラノーマ細胞の 増殖抑制、 抗原の感作なしに腫瘍細胞を 傷害する natural killer 細胞(NK 細胞)の 活性化が期待できる。表皮細胞、線維芽細胞、 ならびにリンパ球から RIG-I・STING 誘導性 I 型 IFN が産生され、局所的な免疫賦活効果が 腫瘍縮小を誘導すると考える。

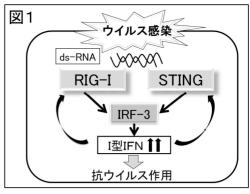
2.研究の目的

本研究は、「自然免疫」に必須な細胞内ウイルス感知レセプターを人為的に亢進させることにより、局所的に免疫を賦活させ抗腫瘍効果を導き出すことである。

3.研究の方法

(1) 細胞

ヒト表皮細胞(HaCaT細胞) ヒトメラノー マ細胞(SK-MeI-28、Colo679、501mel、MeWo、



G-361)を、10% fetal bovine serum (FBS)
0.1 mg/ml penicillin、0.1 mg/ml
streptomycin、2.5 µg/ml
amphotericin B を添加した DMEM 培地にて培養した。ウエスタンブロット及び RT-PCR では、各種サイトカイン(IFN- 、IFN- 、TNF- 、TGF-)を添加する前に 0.1% FBS の
DMEM 培地で 24 時間培養処理した。

(2)ウエスタンブロット

すべての細胞株において 70%コンフルエントの状態で各種サイトカイン(IFN- 10,000 unit/ml、IFN- 10 ng/ml、TNF- 10 ng/ml、TGF- 10 ng/ml)および poly-(I:C)(10 μg/ml)を添加、12 時間後に RIPA buffer を用いて細胞回収した。タンパク 15 μgで SDS-PAGE を行い、ニトロセルロース膜に転写、ラビット抗 RIG-I 抗体を用いて検出した。比較検証のためのコントロールとしてマウス抗 -actin 抗体を使用した。

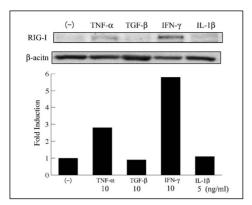
(3)Cell Viability Assay

ヒト悪性黒色腫細胞 501mel を 96-well plate で培養、IFN- (10,000 unit/ml)、poly-(I:C) (10 µg/ml)を添加、48 時間後に、CellTiter-Glo Luminescent Cell Viability Assay (Promega 社)にて細胞生存率を評価した。

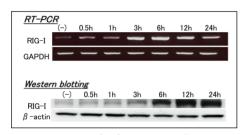
4. 研究成果

(1)ヒト表皮細胞の RIG-I 発現

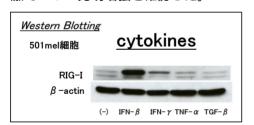
ヒト表皮細胞である HaCaT 細胞を各種サイト カインで刺激、RIG-I 発現の増減を RT-PCR に て確認したところ、TNF- 、IFN- 添加で RIG-I 発現が有意に上昇していた。



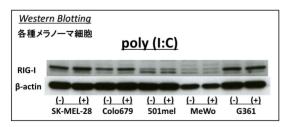
また、合成核酸である poly-(I:C)刺激による RIG-I 発現を経時的に確認したところ、RNA、タンパクレベルで発現増強を確認できた。



(2)メラノーマ細胞の RIG-I 発現 ヒトメラノーマ細胞である 501mel 細胞を各 種サイトカインで刺激したところ、IFN- 刺 激で RIG-I 発現増強を確認した。



また、合成核酸である poly-(I:C)刺激による RIG-I 発現を様々な培養ヒトメラノーマ細胞 で経時的に確認したが、タンパクレベルでは RIG-I 発現増強はみられなかった。



(3) メラノーマ細胞の増殖抑制 ヒトメラノーマ細胞である 501mel 細胞に

RIG-I 誘導能をもつ IFN- を加えたところ、 501mel 細胞の増殖能は有意に低下した。

RIG-I が腫瘍細胞の増殖抑制効果を有すると

推測される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

[雑誌論文](計 16件)

- 1. Minakawa S, Matsuzaki Y, et al. (4番目). Mutational analysis on 16 Japanese population cases with epidermolysis bullosa simplex. 查読有, J Dermatol Sci, 72:330-332, 2013. doi: 10.1016/j.jdermsci.2013.08.001.
- 2. Nakajima K, <u>Matsuzaki Y</u>, et al. (5番目). Signet-ring cutaneous squamous cell carcinoma arising on the back of the finger. 查読有 ,Case Rep Dermatol, 10:215-218, 2013.

doi: 10.1159/000354536.

3. <u>Matsuzaki Y</u>, et al. (1 番目). Deep pseudocystic dermatophytosis caused by Trichophyton rubrum in a patient with myasthenia gravis. 查読有, Acta Derm Venereol, 93:358-359, 2013.

doi: 10.2340/00015555-1452

4. Nishikawa Y, <u>Matsuzaki Y</u>, et al. (2 番目). Characterization of stimulator of interferon genes (STING) expression in human epidermal keratinocytes. 查読有, Hirosaki Med J, 64: S58-64, 2013.

http://hdl.handle.net/10129/4867

- 5. Minakawa S, <u>Matsuzaki Y</u>, et al. (2番目). Acantholysis caused repeated hemorrhagic bullae in a case of acantholytic acanthoma. 査読有, J Dermatol, 39:1107-1108, 2012. doi: 10.1111/j.1346-8138.2012.01564.x.
- 6. Rokunohe D, <u>Matsuzaki Y</u>, et al. (6番目). Spindle Cell Hemangioma and Decorin Expression. 査読有, J Cos Dermatol Sci Appli, 2:8-10, 2012.

- doi: 10.4236/jcdsa.2012.21002
- 7. Rokunohe D, <u>Matsuzaki Y</u>, et al. (5番目).: Multiple aplasia cutis congenita lesions located along Blaschko's lines in a patient with tetralogy of Fallot-A. 查読有, J Dermatol Case Rep, 6:40-42, 2012. doi:10.3315/jdcr.2012.1096.
- 8. Kimura K, Matsuzaki Y, et al. (2番目). Characterization of retinoic (RIG-I) acid-inducible gene-I expression corresponding to viral infection UVB and in human keratinocytes. 查読有 J Dermatol Sci, 66:64-70, 2012. doi: 10.1016/j.jdermsci.2012.02.006.
- 9. Akasaka E, <u>Matsuzaki Y</u>, et al. (2 番目). Normolipidaemic xanthomatosis with systemic involvement of the skin, bone and pharynx. 査読有, Clin Exp Dermatol, 37:305-307, 2012. doi: 10.1111/j.1365-2230.2011.04187.x.
- 10. Korekawa, <u>Matsuzaki Y</u>, et al. (4番目). Late-onset, Eruptive Syringoma in an Elderly Man: Correlation with Carbamazepine. 查読有, Acta Derm Venereol, 92:87-88, 2012.

doi: 10.2340/00015555-1156.

- 11. <u>澤村大輔(1番目)</u> 松崎康司 (2番目)、 他. 各種皮膚感染症に対するナジフロ キサシン軟膏1%の治療効果. 査読有、 臨床医薬、第28巻第5号、419-425、2012 年.
- 12. Akasaka E, <u>Matsuzaki Y</u>, et al. (9 番目). Diffuse and focal palmoplantar keratoderma can be caused by a keratin 6c mutation. 査読有, Br J Dermatol, 165:1290-1292, 2011. doi: 10.1111/j.1365-2133.2011.10552.x.
- 13. Takeda H, Matsuzaki Y, et al. (5番目).

- Follicular mucinosis associated with radiation therapy. 査読有 J Dermatol, 38:1116-1118, 2011. doi: 10.1111/j.1346-8138.2010.01187.x.
- 14. <u>Matsuzaki Y</u>, et al. (1番目). Actinic granuloma associated with erythema nodosum. 査読有, Eur J Dermatol, 21:806-807, 2011.

doi: 10.1684/ejd.2011.1480.

15. Hiromi N, <u>Matsuzaki Y</u>, et al. (3番目). Immunohistochemical analysis of in vivo UVB-induced secretion of IL-1 and IL-6 in keratinocytes. 查読有, Mol Med Report, 4:611-614, 2011.

doi: 10.3892/mmr.2011.478.

16. Takeuchi S, <u>Matsuzaki Y</u>, et al. (2番目). Garlic-induced irritant contact dermatitis mimicking nail psoriasis. 查読有, J Dermatol, 38:280-282, 2011. doi:10.1111/j.1346-8138.2010.00940.x

[学会発表](計 13件)

- 1. <u>松崎康司</u>、矢口貴志、中野 創、<u>澤村大</u> <u>輔: Trichophyton rubrum</u>による嚢腫様深 在性白癬の1例.第111回日本皮膚科学会 総会、2012.6.1-3. 京都
- 2. 松崎康司、西川陽平、木村一之、北村英夫、中野 創、今泉忠淳、佐藤 敬、<u>澤村</u>大輔:ヒトメラノーマ細胞におけるRETINOIC ACID-INDUCIBLE GENE-I 発現との関連と細胞増殖.第19回分子皮膚科学フォーラム、2012.4.13-14. 青森
- 3. Nishikawa Y, <u>Matsuzaki Y</u>, Nakano H, <u>Sawamura D</u>. Characterization of stimulator of interferon genes (STING) expression in human epidermal keratinocytes. 41th Annual European Society for Dermatological Research meeting.2011.9.7-10. Barcelona, Spain.

6.研究組織

(1)研究代表者

松崎 康司 (MATSUZAKI YASUSHI) 弘前大学・医学部附属病院・講師

研究者番号:50322946

(2)研究分担者

澤村大輔 (SAWAMURA DAISUKE) 弘前大学・大学院医学研究科・教授

研究者番号: 60196334